

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年2月13日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300393
法人名	社会福祉法人 恵仁会
事業所名	グループホーム ふれあい
所在地	鹿児島県鹿屋市下祓川町1805番地 (電話) 0994-40-2588
自己評価作成日	令和元年12月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年1月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の特別養護老人ホーム鹿屋長寿園や、隣接する池田病院・鹿屋訪問看護ステーションとの連携を図りながら運営している為、緊急時の安心感により、多くの申し込みを頂いている。花見の時期には桜の木がたくさんあり、花の下で食事を楽しみ、敷地内にはホタル池もあるため、四季を感じる環境にある。職員教育にも力を入れており、様々な研修に参加することで、職員教育にも力を注いでいる。特に外部研修や法人内での研修を通じて個の気づきの”力”になっている。また、実習生を多く受け入れ、時には実習生より学ぶ事もある。職員不足は否めないが、少ない人数でも連携を図る事で、利用者の変化に対応できるように記録等を工夫している。そのため最後まで暮らし続けたいと希望される家族が多い。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、運営母体の特別養護老人ホームを始め、協力医療機関や訪問看護ステーション等と同一敷地内に建てられている。協力医療機関との24時間の医療連携体制及び訪問看護師との連携協力により、緊急時を含め安心して過ごせる環境が整っている。母体法人の多職種の職員との協力・支援体制も築かれている。
- ・町内会に加入し、地域の運動会や老人会の忘年会・地域交流会に地域の一員として参加している。地域からは事業所の避難訓練への参加協力や野菜の差し入れもあり、積極的に地域との交流に取り組んでいる。また、市職員や小学生の来訪、看護学生の実習受け入れもしている。
- ・職員は、利用者一人ひとりに合わせたケアを工夫し、本人ができない部分を支援して残存機能を維持できるように取り組んでいる。また、職員の研修受講や資格取得を支援し、サービスの質の向上を図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は当初より変わらないが、その理念の上に、地域を大切にしながら運営できている。	理念は玄関に掲示すると共にパンフレットにも記載し、ミーティング時に理念の確認を行い理念に基づいたケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は近所の方が歩いてくるには少し距離があるが、町内会の一員として行事に参加するよう努めている。無人販売等を活用して、あたりまえの関係性が築けている。	町内会に加入し、地域の運動会や老人会の忘年会・地域交流会等に参加し、避難訓練には住民の参加協力がある。小学生の訪問や看護学生等の実習生を受け入れており、積極的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域のサロン活動には参加している。その中で困りごとに関して相談を受ける事もある。出前講座、オレンジの窓、サポートワーカーの活動がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域の方が中心になり参加頂いている。意見を頂き参考にしてしている。身体拘束適正化検討委員会も同時に開催している。	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、事業所のヒヤリハットを含めた報告等を行い、意見交換をしている。地域と事業所行事の情報交換や身体拘束についての意見を得たり事業所の取り組み等を発信する良い機会になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	毎回の運営推進会議には鹿屋市の職員の出席を頂きながら、意見交換が出来ている。毎月の報告事項も決められており、決められた項目についての意見交換も行われる	市の担当者とは、運営推進会議時の意見交換や報告に出向いて連携を図っており、必要時には相談をしている。市主催の研修会に参加し情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	夜勤帯を除き、玄関のカギは空いている。身体拘束に関しては毎月のミーティングで事例を活用して勉強会を行っている。	指針があり、委員会を2ヶ月に1回、研修会は毎月実施している。利用者一人ひとりに合わせた言葉遣いを工夫したり、日中玄関の施錠はせず一緒に散歩に出る等、利用者への目配りと職員間の声掛け・連携で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議等の中でも鹿屋市から話題を提供される事もあるが、身体拘束と同様、毎月のミーティングの中で話題にしている。新聞等から抜粋して教材とするときもある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	在宅会議等で議題となるケース、「例、クーリングオフ」それら情報を共有するなど、理解を深められるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	申込時点でしっかり話を聞き、不安な点を確認し、契約時には毎回1時間費やしている。また、利用料金等の変更の際は家族会を開催し、説明と同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時、家族会、交流会等、家族とのコミュニケーションは大切にしている。ベッドマットの交換を行うなど運営面にも反映している。	利用者には日常の会話の中で要望等を聞いている。家族には、年2回の家族会や交流会・面会時に話しかけ要望等を聞いており、その都度検討し対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常的に職員からの意見は法人全体の会議の中で提案するようにしている。	毎月のミーティングや年2回の個人面談で職員の意見を聞く機会を設けている。提案や意見は試行してみて継続を検討するという方針で、反映できるようにしている。個別相談は管理者が受けて対応している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課を行い、適材適所の判断、ライフワークバランスを図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の能力により積極的に研修に参加して頂いている。また、資格取得のための研修に参加出来る様、勤務調整を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者は大隅介護事業所連絡協議会の役職を担っており多くの研修も開催している。そのため職員の研修環境は恵まれており、質の向上に繋がっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者にはグループホームの特性の説明を行い、納得の上入居して頂いている。本人の生活歴や性格に配慮したレイアウトを行い、なじみの家具は持参して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される時はアセスメントを充分に行い、本人、家族の要望に添えるように話し合っている。慣れるまでは十分観察を行い、介助の方法を編み出している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向をお聞きしながら援助している。その時の状況により必要な支援を見つけ納得いかれるケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は模擬の家族である事から、その人の能力に応じたお手伝いを頂くことで、生活の張りを感じて頂くように支援している。現在重度化が進み一部の人しか適応できない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診、外出、面会時の食事介助、入浴後のお母様の髪を乾かすなど、ご家族が出来るところはお願ひすることでご家族と共に利用者を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望によっては外出したり、来ていただいている。その方が大切にしてきた人間関係は大切にし、お茶などでおもてなししている。	家族等の面会時に居室等でお茶を出してゆっくりしてもらったり、家族との受診や散髪・自宅訪問等の外出を支援し、関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症になると明確に性格が表れる。性格が合わない人もいるので席はその時の状況で変更することがある。職員は気付きを大切にしながら優しく接している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ふれあいで生活された方はほとんどが最期まで過ごされる。家族にも寄り添いながら相談にものり、最後まで安心して頂けるように援助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的な関わりの中で本人の思いをお聞きし支援に活かす、ご家族面会時、プラン更新時にはご本人や家族の思いをお聞きしている。自分で思いを表現できない方は、その表情から察した援助を行っている。	本人の思いを引き出せるよう、日常の会話を工夫している。意思疎通が困難な場合は、家族や利用していたサービス事業者等からの情報を参考に、本人の思いを推測し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時はアセスメントを行いその人の生きてこられた過程の把握に努め、その生活歴や環境を援助に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は体力により異なる。無理の無い様にお元気な方は散歩や機能訓練をして頂いている。職員はその人の能力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成に当たり本人・家族・職員の意見を吸い上げている。その意向に耳を傾けながら、自立支援とパーソンセンタードケアに努めている。毎月のミーティングを利用し、モニタリングしている。	面会時に担当者会議を実施し、本人・家族・職員で検討している。ミーティング等で出された職員の意見も入れて介護計画を作成している。モニタリングを毎月実施し、6ヶ月毎及び状況変化等の必要時に介護計画を見直している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は重要と考える。変化や気付きを大切に記録に残している。口頭での引継ぎが十分にできないことから、記録を見るとその状態が解る仕組みをとっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者は状態が少しずつ変化している。状態変化時は医師や訪問看護師、栄養士、介護用品を取り扱う人たちのアドバイスを受け、相談することで本人の苦痛を和らげる援助を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や法人の行事を大切にしながら楽しみごとを作っている。地域の行事に積極的に参加しているがバリアフリーでないところへは出かけるのが困難である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望で病院受診も行っている。池田病院にかかっていらっしゃる方が多いがかかりつけが他の病院の方もいらっしゃる。皮膚科はご家族の希望する病院受診を行っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を、家族の協力も得て実施しており、職員同行の場合は結果を家族に報告している。訪問看護師の週1回の来訪もあり、協力医療機関と24時間医療連携体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日頃から訪問看護師にお世話になっており、病状的に不安なことがあると電話で相談できる環境にある。法人内の看護師にも相談でき、受診のアドバイスを頂いている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>隣に病院があり、看護師とも気軽に相談できる環境である。入院されても毎日訪問出来る環境ではあるが、一年間入院された方はいない。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ターミナルケアを実施している為に、常日頃から知識を身に付ける事ができるように研修等にも参加して頂いている。家族とは入所時に終末期に向けた話し合いは行っているがその時その時で家族の気持ちに変化があるので、都度、十分に話し合いを行っている。</p>	<p>契約時に重度化等の場合の対応について指針で選択肢も含めて説明し、同意書をもっている。重度化等の場合、家族に職員が同席して医師の説明を聞き、家族の意向を確認している。意向に沿って、チームで支援している。看取り介護の実績がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の情態は常に職員で連携しながら把握につとめているが、とっさの時、直ぐに行動がとれるように勉強会やミーティングで訓練を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災避難誘導訓練は地域の方を交え訓練している。また、水害に備え母体の鹿屋長寿園への避難通路を設置した。</p>	<p>年2回の避難訓練を昼夜想定で実施し、消防署の立ち会いが1回あり、法人職員及び地域住民の参加協力を得て実施している。備蓄は、水・パン・カップラーメン等を準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の方はみなさん社会的に活躍された方なので、職員は利用者を敬いながら接している。相手のプライドを損ねる事がどれほどケアにダメージを与えるかを職員は理解している。	研修を実施し、「自分にされて嫌なことはしない」を基本に対応している。さん付けでの呼びかけや排泄介助時のさりげない声掛け等で誇りやプライバシーを損ねないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で思いを聴きとれるように援助している。職員は本人に決めて頂けるような声掛けをしている。その思いを職員同士共有出来るように伝えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、その人の体調や精神状態に合わせた援助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	常に清潔に保てるように援助しているが、本人の意見をお聞きし、衣類を選んだり、買い物に行き、おしゃれのお手伝いもしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つである事から、季節・旬を大切にしながら、出来る方には料理のお手伝いも頂いている。	旬の野菜等を使って個々に応じた食事形態で提供し、外注も利用している。誕生日のケーキや好物・季節の行事食・バイキング・バーベキュー・外食・弁当持参の外出等で食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は栄養バランスを考えながら料理をしている。一人一人の状態を把握し、水分が摂りにくい時は好みの飲み物をお出しして水分摂取の援助をおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの大切さを認識しており、1日3回の口腔ケアは欠かせない。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの排泄のパターンを理解し、オムツが自己負担である事から、定期的に声掛けや、その人の行動を把握することで排泄の失敗の回避に努めている。	オムツ使用の利用者も含め、昼間はトイレでの排泄を支援している。個々の排泄パターンに合わせて、誘導・声掛け・見守りを行っている。必要に応じて、夜間のみオムツやパットで対応している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の多くは便秘である為お茶や飲み物、食べ物に工夫している。歩行される方は散歩したり、歩行不安定な方は運動していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は楽しみの一つであるが、職員の配置等によっても時間が決まってしまう事がある。それでも利用者のその日の気分によって入って頂いたり、中止することもある。入浴が楽しめるものになる様職員は話題にも工夫している。	週2回以上の入浴を午後の時間帯で実施しており、リフト浴や2人介助を実施し、安全に入浴を楽しんでいる。嫌がる場合は、声掛けの工夫等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前、午後共にベッドでの休息をとられる方、日中は眠らずに起きていらっしゃる方、それぞれの生活習慣がある。夜間の安眠を誘うため、散歩や日光浴を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は担当医師の処方に基づき援助している。薬の変更に関しては連絡帳を利用し職員への周知を行っている。新しい薬に関しては薬剤師に聞いたりインターネットで調べ、効果や副作用を勉強している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った役割を持ち、職員から感謝されここにいる喜びを感じる利用者様もいらっしゃる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>車椅子に方が増え、マンツーマンでないと外出できない事から家族の応援を頂く事もある。</p>	<p>天候の良い日は敷地内の散歩をしている。法人のリフト車を利用して、初詣や花見・バラ見物・ブドウ狩り・ミカン狩り等に出かけている。希望でドライブに出かけたり、家族の協力を得ながらの外出等、できるだけ出かけられるよう支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者はお金に関心を示されない方が多くなっている。買い物に出かけ、自分でお金を払って頂く方はわずかであるが嬉しそうな表情をされている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話に興味がある方はいらっしやらないが、ご家族からの電話をかわって話されることはある。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間で過ごされる方が季節感を味わえるように、季節の行事にちなんだタペストリーや季節の花を飾っている。</p>	<p>リビングは天井が高く天窓もあり明るく、ガラス戸からの日光をカーテンで調節したり、冬季はぬれタオルや洗濯物で湿度管理をする等、居心地良く過ごせる室内環境を工夫している。季節のタペストリーや行事の写真を飾り、季節を感じる飾りつけを工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間にはソファを置き、くつろげるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の使い慣れたものを持参して頂いている。本人の安全に配慮したレイアウトになっている。</p>	<p>居室にはベッドや洗面台・タンス・クローゼット・エアコンがあり、好みに、本人がテレビや暖房器具・寝具・お話しロボット・ぬいぐるみ・写真等を持ち込み、安心して暮らしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや非常口はそれぞれ表示がある。利用者はその身体能力によりポータブルトイレや介護用品を駆使することで出来る事に配慮した生活の支援を行っている。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない